

2018年度 第2回札幌市児童会館運営協議会会議記録

日時：2019年3月11日（月）午前10時～11時30分

場所：札幌市環境プラザ 環境研修室1・2

出席：（委員）加藤委員、松山委員、佐藤委員、有塚委員 4名出席

※欠席 小野寺委員、鈴木委員、

（事務局）五十嵐こども育成担当部長

齊藤児童会館担当課長、齊藤児童会館担当課長

笹川児童会館担当課長、大場児童会館担当課長

板村係長、大水係長

傍聴：札幌市子ども未来局2名（齊藤係長 竹中事務職員）

1 開 会

五十嵐こども育成部長挨拶

2 議 事

会議次第を確認後、報告および説明事項の審議が進められた。

（1）2018年度 後期の児童会館事業報告について

2月24日実施事業「げんキッズフェス2019」の様子を映像上映

齊藤児童会館担当課長より後期の児童会館事業報告を説明し、了承された。

委員からの質問・意見はなし。

（2）2019年度 年間事業計画について

笹川児童会館担当課長より、2019年度事業計画について説明し、了承された。

委員からの質問・意見はなし。

（3）札幌市子ども未来局より

・札幌市より、下記の2点について報告があり、了承された。

①児童会館の整備について

②学習レシピについて

委員からの質問・意見はなし。

3 意見交換

(1) 各委員よりご意見

- ・ 2月24日実施の「げんキッズフェス 2019」では、子どもたちが「やりたい」ということを形にして各児童会館の取り組みが集結し見事であった。また、日本発祥の楽器であるトーンチャイムを児童会館で取り入れて子どもたちが喜んで演奏をしていることが良かった。大きな事業で準備の苦労があると思われるが、継続した事業としてほしい。
- ・ 現在、老人福祉センターとの複合館でボランティアをしているが、合同の避難訓練を希望したい。災害時は子どもからお年寄りまで一緒に避難生活を送ることが予測されるため、今の段階からマナーを教えることなどを準備していくことがよいのではないか。事業の報告の中で高校生ボランティアの活動報告が素晴らしかった。高校生に町内会活動でも活躍していただきたい。
- ・ 児童クラブに所属する児童の来館・退館時に保護者へメールが届くシステムがあるが、子どもを預ける保護者の立場からはとても安心するものであった。子どもが児童クラブを退会したにも関わらず、昨年の震災時に緊急の連絡が届いたためシステムの確認をお願いしたい。
- ・ 児童クラブ員の保護者に事業への協力依頼があるが、保護者の中には保育園と同じ感覚で児童会館を利用している方がいると考えられる。普段見られない子どもの姿や児童会館の取り組みを見ることができる機会であることから、理解が得られるように更なる保護者との関わりが必要ではないか。
- ・ 地域との関わりを数値で表し平均値を見て満足度を見ることも大切であるが、満足度が低い人たちがどのような人たちなのかを理解することが重要である。数値目標も大切ではあるが、その中にある多様性を見てもらうことがとても大事であると考える。
- ・ 児童会館には多くの強みがあると考える。災害時には、不安を感じる子どもや落ち着きがない子どもが多くなる。そのため子どもたちの特性を理解した児童会館の職員が発信地となり、対応することができるかとよいと考える。
- ・ ホストファミリーとして外国の高校生を受け入れた経験から、学校以外の場所で多くの人と関わることができる機会があるとよいと感じた。児童会館で関わる時間を設けることができると双方にとってメリットがあるのではないか。
- ・ 地域とのつながりということは、メリットはかなりあると思う。その反面、地域とつながっていない児童会館にあるメリットもあるかもしれない。地域とのつながりがある会館の強みと弱み、地域とのつながりがない会館の強みと弱みを一度明らかにした上で児童会館のあり方を検討することも考えてみてはどうか。

4 閉 会

五十嵐こども育成部長挨拶

以上